

# 三六災害を語るリレー座談会及び現地学習会 (松川町会場)の開催

併設：三六災害パネル展示

今年6月に昭和36年6月梅雨前線豪雨による災害から50年が経ちます。多くの山の斜面が崩壊し、川、沢で土石流が発生し、生田地区に大きな被害をもたらしました。

あれから50年、先人の方の努力により地域は復興し、時代の流れとともに地域の様子は様変わりしました。同時に道路などの公共資本が整備され、安心な生活が送れるようになりました。

しかしながら平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震被害のような想像もできない大災害が起こる現実があります。我々が「備えあれば憂いなし」のことわざを現実を活かす、そのために三六災害を語る座談会を下記のとおり開催します。

当時松川東中学校で災害を経験された信州大学の北澤秋司名誉教授の講義を交え、災害を経験された方々の生のお話を聞くことを通して、住んでいる地域の防災力の向上を図りたいと考えますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。



▲三六災で濁沢川が押し出した土砂 (中日新聞社提供)

日時	平成23年5月22日(日) 13:30~16:30(予定)
会場	松川町生東会館(生田グランド横)
次第	<ol style="list-style-type: none"><li>1 講義「三六災害の特徴」(40分) 信州大学名誉教授 北澤 秋司</li><li>2 報告「道路状況や気象情報などの防災情報の50年の変遷」(15分) 長野県飯田建設事務所</li><li>3 災害体験談(45分)</li><li>4 意見交換(30分) 「未来へ備える災害伝承～将来へ語り継ぐもの」</li><li>5 現地学習会(50分) 場所：生田グランド周辺付近</li></ol>
主催	松川町・生田地区区長会
共催	三六災害50年実行委員会

【問い合わせ先】 松川町役場 建設水道課 村田

36 - 7028